

# 検査の流れ及び留意点



## 検査前準備

検査6時間前より、食事及び糖分含有飲料はお控えください。



## 受付



## 更衣・問診

診察着に着替え、まずは問診を受けてください。



## 注射

検査薬剤を静脈より注射します。



## 安静

薬剤が体内に行きわたるまで、約50～60分お休みください。



## 検査実施(撮影)

排尿後、約20～30分間の検査撮影を行います。



## 休憩

検査終了後、回復室にて約50分ほどお休みください。(室外へは出られません。)



## 追加検査実施(撮影)

排尿後、約10～15分間追加して検査撮影を行う場合があります。

## 受診に関するご案内

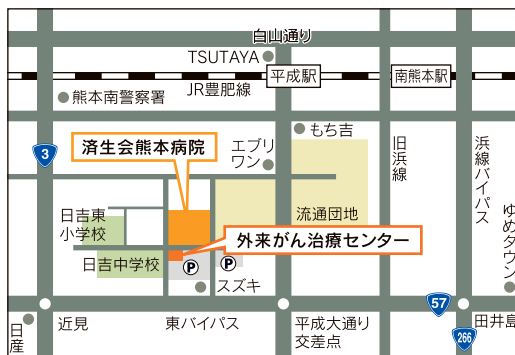
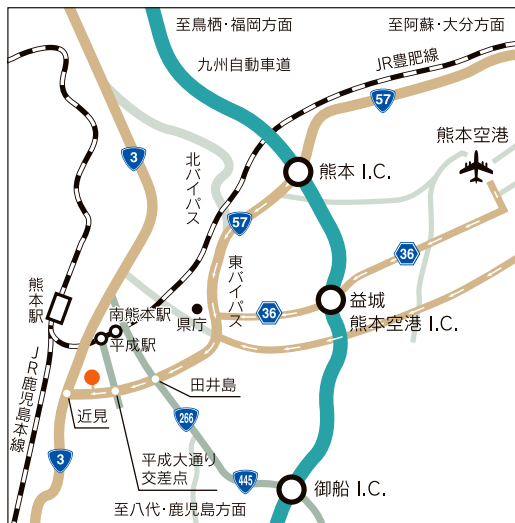
PET/CT検査は、完全予約制です。

当院をはじめてご利用になる際には、

かかりつけの先生の紹介状をお持ちください。

■お問い合わせ先／▲096-351-8000

■電話受付時間／平日午前8時00分～午後4時30分



## 外来がん治療センター



社会福祉法人  
恩賜財団 済生会熊本病院

SAISEIKAI KUMAMOTO HOSPITAL

〒861-4193 熊本市南区近見5丁目3番1号

TEL. 096-351-8000

FAX. 096-326-3045

<http://www.sk-kumamoto.jp>

社会福祉法人  
恩賜財団 済生会熊本病院  
SAISEIKAI KUMAMOTO HOSPITAL

# PET/CT

PET/CT検査で  
がんの早期発見が  
可能になりました。

## 外来がん治療センター

OUTPATIENT CANCER TREATMENT CENTER

# PET/CT



## 細胞の状態や働きから「がん」を早期発見できる検査法です。

### PETとは(概要)

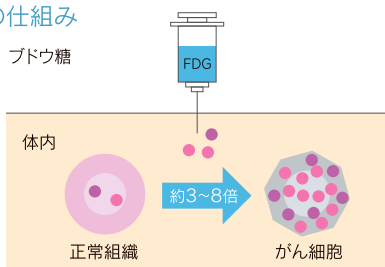
PET(Positron Emission Tomography)とは、「ペト」と発音され、細胞の状態や働きを調べる検査です。CTやMRIのように臓器の形の異常を検査するのではなく、細胞の状態や働きを調べる検査法で、がんの発見などに利用されています。

### PET検査の仕組み

PETは、人体から検出されるガンマ線を測定することにより、人体の状態を調べます。PET検査では、ブドウ糖にわずかな陽電子を放出するフッ素-18(以下FDG)を目印としてつけた薬剤を体内に注射します。がん細胞は正常組織と比較し、約3~8倍のブドウ糖を摂取(消費)する性質がありますので、がんには薬剤が多く集まり、そこから放出された陽電子が近くの電子と衝突し、ガンマ線を多く放出します。この状態を体外からPET装置で撮影し、がんの位置や大きさなど、がんの状態を診断します。

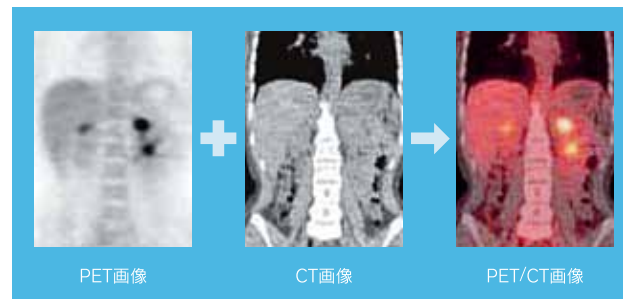
### PET検査の仕組み

● FDG ● ブドウ糖



### 「PET」と「CT」を組み合わせた、最新の画像診断装置「PET/CT」

PET検査と同時にCT撮影が行える画像診断装置、「PET/CT装置」を導入したことで、より迅速で、正確な診断が可能になりました。



### PET/CTの特長

- 比較的小さながんの発見が可能
- 一度に全身の検査が可能(下肢は除く)
- 呼吸による動きのある臓器でも十分な画像を得ることが可能

検査で使用される薬剤「FDG」はブドウ糖の一種であり、これまでに薬による副作用の報告はほとんどありません。また、薬剤の大部分は尿から排泄されるため、翌日にはほとんど体内に残りません。検査による痛みや不快感が少なく済みます。

※ただし、ブドウ糖を使いますので、糖尿病の方や血糖が高い方などは診断ができないことがあります。

### Q&A Q1

#### PET/CT検査

#### 1回あたりの被ばくは？

A. 検査で使用する薬剤「FDG」からの被ばく量(3.5msv)は、胃のバリウム検査と同等です。更にCTでの被ばくが加わり約15msvになりますが、急性放射線障害が起きる可能性や将来のがん発生の可能性もほとんどありません。

### Q2

#### PET/CT検査のみ受けていれば安心ですか？

A. 臓器や部位によっては、発見できないがんもあります。また、腎臓や膀胱といった正常でも薬剤が集まってしまう部位の診断には向いていません。以上の点から、PET/CT検査だけでなく、他の検査を併用して最良の診断を提供いたします。発見しにくいがんとして、膀胱がん・尿管がん・腎臓がん・肝細胞がん・胃がん・前立腺がん、すべての微小がんがあります。

### Q3

#### 保険は適応されますか？

A. PET/CT検査は基本的に保険適応です。ただし、保険適応とならない場合もありますので、お尋ねください。適切に対応させていただきます。また健診でのPET/CT検査は、自由診療扱いとなりますのでご注意ください。